

第5学年2組 体育科学習指導案

単元名：タグラグビー

指導者 呉市立広小学校 徳永 真也 (T1)

呉市立広中央中学校 森重 勇一朗 (T2)

日時 令和4年12月9日(金)(14時00分～14時45分)

場所 呉市立広小学校 体育館

学年 第5学年2組(男子16名 女子16名 計32名)

単元について

本単元は、小学校学習指導要領解説体育編の第5学年及び6学年の内容

E ボール運動

- (1) 次の運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解するとともに、その技能を身に付け、簡易化されたゲームをすること。
 - ア ゴール型では、ボール操作とボールを持たないときの動きによって、簡易化されたゲームをすること。
- (2) ルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだりするとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。
- (3) 運動に積極的に取り組み、ルールを守り助け合って運動をしたり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすること。

を受けて設定したものである。

タグラグビーとは、同一コートで行う、攻守混合系の陣地を取り合うゴール型の運動である。タグラグビーでは、どんなに足が速く技能が高い児童でも、一人のプレイだけではトライをすることができない。そのため、チームで協力をし、作戦を立てる活動に重点を置くことのできる単元である。

タグラグビーでは、タックルなどの身体接触や、飛び込むなどの激しいプレイを禁止している。タックルのかわりに、タグをとって相手を止めることができ、男女混合で楽しむことができる。そのため、コロナ禍でも非身体接触で楽しむことのできる単元である。また、ボールを持って走り、ゴールラインを超えることで得点ができるため、運動が苦手な児童でも取り組みやすい。だが、前へのパスの禁止、パスを出した後はボールを持つ人の後ろに回らなければならないなど、タグラグビーならではのルールがある。また、相手が居ないところを狙って攻めたり、チームでパスを継続したりするなどの動きに慣れさせることが必要である。

児童の実態について

本学級の児童に体育に関わるアンケートを実施した結果から、「体育への関心」は85.7%と高い。しかし、「ボール運動が好き」は74%であり、ボール運動への関心はあまり高くはない。

また、チームで行う運動では、75%が「友達と協力をすることが大切」と感じている。その一方で、「自ら作戦を考え提案する」は40.7%、「友達にアドバイスなど声かけをする」は18.5%で、自己や仲間で作戦を立てることを得意としない児童も多くいる。

このことから、タグラグビーを進めていく上で、友達と協力をすることに苦手意識はないと思われるが、作戦を考え、それを提案・助言するといった活動には、手立てが必要である。

指導改善のポイント

児童の実態から、課題に対する手立てを以下のように講じる。

- ① 自己やチームの特徴に応じた作戦を選ぶ、または立てること。
- ② 兄弟チームで、自己や仲間の考えたことを伝え合うこと。

【本単元に関わる指導の工夫】

① 導入の工夫

「どうすればチームで協力して、タグラグビーを誰もが楽しく、喜びを味わうことができるだろうか。」という単元を貫く問いを設定することで、チームで協力して活動できるようにさせる。

ワークシートやタブレットで作戦などを記入させて学習の見通しをもたせることで、チームの課題を見出し、作戦を考えさせる。

② 学び合い

兄弟チームを編成し、作戦のよかった点と課題点、動きのよかった児童などについて、お互いに伝え合うことでチームの課題を明確にさせる。

自分や仲間が行っていた動き方の工夫を、動作や言葉、絵図、タブレットで伝え合うようにさせる。

タブレットで兄弟チームの試合の動きを撮影し、チームの課題を共通理解する。

③ まとめと振り返り

兄弟チームでお互いの作戦について振り返りを行い、次にどうしたらよいかアドバイスをさせる。また、兄弟チームのアドバイスからチームの作戦を考え、一人一人に振り返りをさせる。

まとめとして、チーム内で作戦名を考え、発表させて次時への意欲をもたせる。

単元の目標及び評価規準

- ゲームの行い方を知り、ボール操作とボールを持たない時の動きによってタグラグビーができるようにする。
(知識及び技能)
- チームの課題を見つけ、ルールを工夫したり、作戦を選んだりして自分や仲間と考えたことを伝え合うことができるようにする。
(思考力、判断力、表現力等)
- 仲間の考えや取り組みを認めたり、勝敗を受け入れたりして、積極的に運動をすることができるようにする。
(学びに向かう力、人間性等)

【評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① ボールを受けやすい位置に動いてパスを受け、状況に応じてパスやステップなどの攻撃ができる。 ② チームの作戦を基に、友達と協力した攻防ができる。 ③ タグラグビーの行い方について言ったり書いたりしている。 ④ タグラグビーのルールについて、友達同士で確認し合い、理解している。	① 個人やチームの課題を解決するための作戦を考えたり、既習の作戦を選んだりしている。 ② 相手への攻防を考えたり、チームに紹介したりしている。	① 作戦を基に、進んで練習や試合に取り組もうとしている。 ② ルールを守り、友達と助け合って試合に取り組もうとしている。 ③ 用具の準備や片付けを協力して行おうとしている。 ④ 場や用具の安全を確かめようとしている。 ⑤ ゲームの勝敗を受け入れようとしている。 ⑥ 友達の考えを認めようとしている。

指導と評価の計画

(全7時間) 本時は6/7

時間	1	2	3	4	5	6 (本時)	7
ねらい	学習の進め方を知り、見通しをもつ。	チームに合った簡単な作戦を選んで取り組む。			兄弟チームで見つけた課題の解決に取り組む。		チーム対抗戦を行い、学習したことを発揮する。
単元を貫く問い		どうすればチームで協力して、ラグビーを誰もが楽しく、喜びを味わうことができるだろうか。					
学習活動	1 単元の学習内容と本時のめあての確認 ・1時間の流れを知る。 ・ルールを確認する。 2 試しのゲーム ・提示された作戦を選び行う。 3 整理運動・振り返り・片付け	1 用具や場の準備、準備運動 2 本時のめあての確認 3 課題解決についての話し合い 4 チームでの練習 ・話し合ったことや選んだ作戦を基に練習を行う。 5 ゲーム ・話し合ったことを実行したり、チームの作戦を意識して取り組んだりする。 6 振り返り ・チームの工夫やよさについて発表したり、学習カードへ記入したりする場を設ける。			1 用具や場の準備、準備運動 2 本時のめあての確認 3 基本的な練習を行い、チームで作戦の確認 4 ゲーム① 5 兄弟チームで振り返り 6 ゲーム② 7 自己の振り返り 8 まとめ 9 整理運動・片付け		1 用具や場の準備、準備運動 2 本時のめあての確認 3 ゲーム 4 振り返り 5 まとめ 6 整理運動・片付け
評価の観点	知	④ (観察)	③ (カード・観察)	① (観察)	② (観察・カード)		
	思			① (ICT・観察)	② ※ (観察・ICT・カード)		
	態	②④ (観察)	① (観察)		③ (観察・カード)	③ (観察)	⑥ (観察・カード)

※ 第5・6時では、児童の表現する機会が増えることが予想されるため、2時間続けて一つの評価を行うようにする。

本時の学習

(1) 本時における教科の見方・考え方

- 集団対集団の攻防によって仲間と力を合わせて競い合う楽しさや喜びを味わうことができること。

(2) 本時の目標

- 試合を行い、兄弟チームの助言を聞いて、チームに合った作戦を立てる（選ぶ）ことができる。

(3) 本時の学習展開

学習活動	指導上の留意事項（◇） （◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て）	評価規準 （評価方法）
1 準備体操と練習（5分）		
<ul style="list-style-type: none"> ○ 準備運動をする。 ○ 兄弟チームで練習をする。 ・パス・動き 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 準備体操の中に、タグラグビーの動きに必要な運動を取り入れる。（T2） 	
2 気付きの交流と本時のめあての確認（5分）		
<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時のめあてを確認する。 ○ 兄弟チームで作戦の説明を し合う。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> めあて 対抗戦に向けて、チームの課題を見付け、チームに合った作戦を立てよう。 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-bottom: 10px;"> <div style="background-color: black; color: white; padding: 2px 5px; border-radius: 3px;">視覚化</div> <div style="background-color: black; color: white; padding: 2px 5px; border-radius: 3px;">焦点化</div> </div> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 掲示物を使用して、めあてや流れが理解しやすいようにする。（T1） <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center;"> 導入の工夫 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・前時に決めた作戦をあらかじめ記入させておき、兄弟チームに説明できるようにしておく。 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・うまくスペースを見付けて走り、パスをもらうよ。 ・チームの動きを見て、正確にパスをするよ。 ・ボールを持ってない人は、ボールを持つ人の近くで すぐにパスが受け取れるようにするよ。 </div>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;"> 児童の気付き </div>
3 試合、交流（27分）		
<ul style="list-style-type: none"> ○ 試合をする。 （ ）＝観察 1コート 2コート ① A対B C対D (a) (b) (c) (d) ② a対b c対d (A) (B) (C) (D) 	<ul style="list-style-type: none"> 1コート（T1） 2コート（T2） ◇ 審判は、教師が行う。 ◇ 得点板や時間は、見学をしているチームの児童に行わせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> 学び合い </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・兄弟チームで、作戦の良い点、課題点、動きの良かった児童について、動作やタブレットを用いて伝え合うようにさせる。 </div>	

○ 兄弟チームごとに試合を振り返る。	◇ チームの話し合いの輪に入り，改善点について伝え合えるように助言をする。(T 1, T 2)	・相手への攻防を考えたり，チームに紹介したりしている。【思考・判断・表現②】(観察・ICT・カード)
児童のつまずきの要因分析とそれに応じた手立て ・チームでタブレットを使って作戦を話し合わせることで，主体的に話し合いに参加できるようにする。		
○ 改善点を基に，もう一度試合を行う。 1コート 2コート ③ A対D B対C (a) (d) (b) (c) ④ a対d b対c (A) (D) (B) (C)	T:「ボールを持っていない人の動きはどうしたらいいかな。」 S:「ボールを持っている人の後ろに引っついて，いつでもパスを受け取れるようにする。」 ◇ 1試合目を見て，アドバイスをする。(T 2)	

まとめ

4 学習のまとめ・振り返り (8分)

○ 本時のまとめを行う。		・友達の考えを認めようとしている。【主体的に学習に取り組む態度⑥】(観察・カード)
まとめ チームに合った作戦を立てることができた。		
○ 振り返りを行う。	◆ 自分の振り返りが苦手な児童には，あらかじめ児童の様子を観察しておき，伝える。(T 1, T 2) ◇ 全体で，児童の振り返りの共有を行う。	
まとめと振り返り ・前の時間に考えた作戦が成功した。 ・次の時間は，もっとパスを正確に出したい。 ・○○君のパスが正確でよかった。		
○ 整理運動を行う。(T 2)	◇ 次時の対抗戦へ意欲を高めるために，チームごとに作戦名を発表させる。	

(4) 板書計画

(表)


タグラグビー

めあて

対抗戦に向けて、チームの課題を見付け、チームに合った作戦を立てよう。

○タグラグビーの基本のルール

- ・
- ・
- ・
- ・

 **見方・味方カード**

前時の児童の振り返りからでたキーワード

前時の児童の振り返りからでたキーワード

前時の児童の振り返りからでたキーワード

前時の児童の振り返りからでたキーワード

前時の児童の振り返りからでたキーワード

(裏)

まとめ

チームに合った作戦を立てることができた。

トーナメント表